

## H-7 脳神経外科医療を変える高気圧酸素

合志清隆<sup>1)</sup> 山本東明<sup>2)</sup> 高村政志<sup>3)</sup>

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| } | <sup>1)</sup> 産業医科大学 脳神経外科・高気圧治療部 |
|   | <sup>2)</sup> ふくおかサイバー脳神経外科       |
|   | <sup>3)</sup> 熊本赤十字病院 国際医療救援部・救急部 |

【目的】脳神経外科領域での高気圧酸素は脳梗塞の治療が主なものであったが、近年その応用は大きく様変わりしている。この治療法の現状をエビデンスとして紹介し、今後の可能性について検討した。

【方法】脳神経外科で扱う代表的な疾患である、悪性脳腫瘍・脳血管障害・頭部外傷・放射線障害・術後感染症等について、欧米のデータベースを用いて文献レビューを行った。

【結果】悪性脳腫瘍の治療では、放射線治療との併用は国内外で普及しており、化学療法との併用でも良好な治療結果が報告されつつある。脳血管障害では急性期の脳梗塞に対する有効性が示されてはいるが、他の有効な治療法との比較検討が必要な時期にきている。また、出血性病変では、くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療やその予防にも可能性はあるが、統計学的な有効性が示されてはいる。脳出血の手術療法の判断基準として試みられているが、慢性期の脳循環代謝で貧困灌流が示されたことから、この時期に有効である可能性が示唆される。低体温療法が否定された頭部外傷では、統計学的な有効性が示されてはいるが、大規模臨床試験が必要であろう。基本的な外科療法の概念を大きく変えた放射線外科治療では、その重大な副作用が放射線障害であり、これに対する有効性が報告されつつあるが、この障害の予防目的でも治療を試みている。これら以外に術後感染症へ応用し、良好な治療結果の報告がある。

【結論】高気圧酸素は様々な脳神経外科疾患へ応用され、それらの治療結果が顕著に改善してきた。この治療法は脳神経外科領域において重要な治療手段になってきている。

## H-8 関東地区における HBO設置施設の状況について

高橋 洋 中島正勝 相沢 朗 菊池泰彦  
小森恵子 廣谷暢子 松田範子 千葉義夫

(日本高気圧環境医学会関東地方会技術部会)

【はじめに】関東地区では、約270台、200施設に高気圧酸素治療装置が設置されているが、現在各施設間又は操作担当者の中に、ほとんど交流が無い。そこで、知識及び技術の研鑽と安全教育の確立を目指し、操作担当者の集う場として関東高気圧酸素治療技術研究会を発足させた。

【目的】昨年は北海道で製鉄所のガス漏れ事故や新宿雑居ビルでの大規模火災など一酸化炭素中毒が同時大量発生する事故が立て続けに発生した。そこで、関東地区HBO施設の現況を把握するために、アンケート調査を行った。

【方法】関東地区(1都6県)のHBO設置施設194施設を対象とし、当技術研究会から各施設のHBO担当者宛にダイレクトメールにてアンケート用紙を送付した。

【結果】回答数は74施設、38%であった。操作担当者の人員構成として、職種、人数、経験年数、業務内容や施設の診療体制及びHBO施行体制について調査した結果、夜間・休日や複数の患者の受け入れ体制等が整っていないことが判明した。

【まとめ】今後も当会では、操作担当者の技術や知識の向上のみならず、HBOが地域の消防組織とも連携した災害対策医療の一翼を担う治療となる足掛かりとなれるよう、学会組織との連携を密にし発展的な活動を行っていきたい。